

# 平成22年度 就職動向と支援

## ① 「早く」「長く」「複雑に」厳しさを増す 就職氷河期の現実

平成22年3月卒業生の就職戦線は、これまで類を見ないと言ってよいほどに厳しいシーズンとなりました。各種報道にもありますように、就職活動に失敗した学生は13万人とも14万人ともいわれ、多数の学生が就職留年・就職浪人という選択を余儀なくされました。

就職活動は年々「早くスタート」し、「長期間にわたって続く」だけでなく、「選考プロセスが複雑化していく」傾向にあります。「就職活動の前哨戦」とも言われるインターンシップへの参加も含めると、3年生の6月から卒業まで、4年間しかない学生生活の中で、相当な長期間にわたって就職活動を続けなければならない学生も現れ始めています。

また、就職戦線が厳しさを増すことで、内定獲得への不安を抱える学生が「少しでも多くエントリーしておきたい」という心理状態に陥り、企業へのエントリー(採用試験への申込)を倍増させていることから、大手企業のみならず、中小企業の選考でも競争が激化しています。

そのため、初期段階の選考からかなり厳しい絞り込みが行われており、面接においても、「自己分析」に基づいて、よりわかりやすく、具体的に自分自身をPRすることが求められ、勉強はもちろんのこと、課外活動やアルバイトなど、幅広い活動の中で自分自身を売り込んでいく姿勢が求められるようになってきました。

その一方で、「就業意識が希薄」「仕事理解が不十分」な学生も目立つようになってきており、「エントリーをしている学生のうち、実際に評価できる学生は少数しかいない」と言われるような、学生の希望と企業のニーズがマッチしないという矛盾や、特定の学生のみにも内定が集中する「二極化」といった現象も現れ始めています。

また、安定志向の強まりから、大企業への人気集中するだけでなく、公務員の人気が急激に高まっています。更に、首都圏の求人数に対して地方の求人は圧倒的に少ないことなど、学生を取り巻く環境は依然として厳しさを増している状況です。

## ② 本学の取組、「キャリアセンター」の設立

平成22年9月1日、更なる学生サービスの向上を目指し、大幅な事務組織の改組を行いました。これにより、従来あった世田谷キャンパス「就職課」、横浜キャンパス「学生サービスセンター」を統合し、横断的な支援を行う「キャリアセンター」として生まれ変わりました。

もちろん、新キャンパスである等々力キャンパスにも「キャリアセンター」が設置され、3キャンパスすべてにおいて、従来の就職支援業務の枠を超えて、キャリア全般にかかわる幅広く充実したサービスを提供できる体制として新たなスタートを切るようになりました。

もちろん、各キャンパスには専門の相談員が常駐し、就職の相談のみならず、職業選択や進学など、将来の進路についての確かなアドバイスを受けることが出来ます。常駐している職員

のうち6割がキャリアカウンセラーの有資格者となっており、キャリアにかかわることはどんなことでも安心してご相談頂けます。また、過去の先輩学生による密度の濃い情報をはじめ、就活支援サービス会社の各種資料なども豊富に提供しております。

学生の進路に関する意識が多様化し、更に厳しさを増す就職戦線に対応すべく、今後ますますキャリア支援業務に注力致しますので、引き続き保護者の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## ③ 本学の支援

こうした状況に対応すべく、本学では先にご報告致しました通り、「キャリアセンター」を創設し、総力を挙げて就職支援に取り組んでおります。キャリア支援担当者の増員をはじめ、各キャンパスの強みや特徴を活かして、一人ひとりのニーズにあった支援を展開しています。

学内で実施している就職支援行事は100回以上にのぼり、徹底して就活スキルを磨きあげています。更に本学の前身である武蔵工業大学時代からの強みである「社会で活躍する卒業生」のご協力を得て、学部・学科ごとに企業・業界セミナーや相談会を実施するなど、充実した支援体制を整えています。

もちろん個別相談も充実しており、カウンセラーによる面接指導や履歴書添削だけでなく、自己分析等の指導も積極的に行い、基礎から応用まで、幅広い指導を行っております。

また、ゆっくりと資料を閲覧したり、履歴書等の作成に利用できるフリースペース、詳細な企業研究にも活用できるPCスペースの拡充や、本学の学生を指定して寄せられる独自の求人だけを検索出来るシステムなどにより、内定獲得を目指す学生を強力に支援しております。

## ④ 今年度の状況

今期の就職状況は全国的に非常に厳しい結果となっており、文部科学省発表の10月1日時点での内定率は「57.6%」と、1996年に統計を取り始めて以来最も低い数値となりました。本学では現時点で工学部が82.1%、知識工学部が82.1%、環境情報学部が62.8%、大学院工学研究科が86.3%、環境情報学研究科が56.3%となっており、全国平均に比べても十分健闘しております。文理融合型の学部である環境情報学部・環境情報学研究科では今般の就職氷河期の影響を受けた結果となりましたが、例年以上に学内での企業セミナーや合同説明会(8月以降合計で5回・述べ100社以上参加)を実施するなど、なお一層の内定支援を展開しております。

今期は就職環境の厳しさもさることながら、就活生の「モチベーションの維持」「動き続ける姿勢」が重要なポイントとなっております。キャリアセンターでは多数の「本学学生だけの求人」を含め、まだ十分に求人情報もごぞいます。現在も活動中の学生への支援を最優先にしておりますので、ぜひ大学のキャリアセンターを活用されるよう、学生ご本人にご指導頂ければ幸いです。